

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500274		
法人名	有限会社 地人協会		
事業所名	グループホームポランの家		
所在地	北海道余市郡余市町大川町8丁目11番地		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0172500274-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①まずは入居者の方が、認知症を患っていても、人間にとって尊厳性とは「普遍的に存在しているものだ」、と云うことを日常的生活支援の原理としています。
 ②また毎日笑顔で過ごせるようスタッフの係り方に工夫しています。
 ③さらには入居者の方の生活歴を踏まえながら、自分の歴史を肯定し明日も元気という気持ちになれるよう、ご本人のお話を傾聴し、共感的態度で関わっていきます。それらの中から、本当の言葉の意味を探っていきたく考えています。認知症ですので不合理な言葉、訴えが日常的に多くありますが、不合理の中に「合理在り」という姿勢で関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

余市湾に近い利便性の良い立地にある2階建て2ユニットの事業所です。2階の窓からは海が見渡せ、天気の良い日は玄関前の日除けパラソルの下でお茶をするなど、ゆったりとした生活が営まれています。代表者は地域内の福祉事業所と災害時に於ける協力体制を構築し、地域防災協定を結ぶ取り組みをしています。職員の希望休や有給休暇の他に、事業所独自の介護・看護休暇制度があり、親族の看病や介護に利用できるよう職場環境を整えています。職員が考案した利用者が個別に行う、漢字や数合わせゲームで、認知機能の低下防止に役立てるなど代表者の指導の下で利用者の生きがいや自尊心を保ちながら生活歴を大切に「その人らしい生活」が営まれるよう支えています。新型コロナウイルス感染症も減少傾向がみられるため、外出や音楽療法の歌声広場を再開できるよう考えています。利用者の明るい笑顔が見られ、安心して穏やかな暮らしが継続されている事が確認できます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果				項目	取組の成果			
	↓該当するものに○印					↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の夜勤者の介護報告から、当事業所の理念的なもの、特に人権に係ることを中心に、その理念を共有化し、次の実践につなげています。	職員は理念を念頭に利用者の尊厳と人権を守り暮らしを支えています。その人らしく生活が出来る暮らしが具体性を持って共有できるように意識しながらケアを行っています。事業所のホームページでも理念が確認できます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり具体的な交流は出来ませんが、いつもの様に事業所近辺の町内会の草刈りを年2回行っています。	前年までは毎月コミュニティレストランで地域住民と交流をしていました。感染症減少傾向に伴い、状況をみながら交流が再開出来るように検討をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所は年4回ほど機関紙を発行していますが、日常生活において、こういう生活もありますよ、こういう笑いもあるのですよ、というメッセージとして発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、紙面会議になりますが、書くことによって、現場へのフィードバック的な思考を持つようにしています。	運営推進会議は前年4月から感染症対策のため書面で行っていますが、毎回議題を決めて資料を添え、議事録を推進委員に郵送しています。今後は未参加の家族にも事業所の取組が理解できるよう郵送する計画をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回発行している機関紙を送付し、事業内容、利用者の雰囲気や伝え、事業所の理念実践をご理解いただけるように努めています。	加算や保護受給者の生活状況確認、報告等で行政担当者と密に連絡を取り合っています。運営推進会議録を推進委員の介護認定係長や福祉事務所等へ郵送しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かをマニュアル化し、尚且つその苦痛が結果的に入居者の方とスタッフの信頼関係を壊し、反福祉的生活になることを共有化しています。また何よりも「心の拘束」は反ボランの家であることを強く云っています	身体拘束適正化のための指針を定めており、身体的拘束等適正化委員会を3か月ごとに開催しています。また、これらに係る研修を年2回実施しています。研修では事例検討や人権について学び、身体拘束を必要としない支援のあり方を話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされないことがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは拘束と同じくマニュアル化してありますが、日常生活における「劣等処遇的」な言葉・態度が具体的になくても、虐待と同列的な反人権的であることを強く云っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に活用し、制度的理解を深めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に病気で入院した時、怪我で入院した時など、ご家族が一番心配されることですので、丁寧にその時はこの様になりますと安心して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフは入居者に対して常に「何故・原因」ということを基本にして接すること、ご家族には来訪時困っているようなこと、要望を聞き出すような会話をしよう云っています	ポランの家通信を年4回発行し事業所での暮らしぶりを文面や写真を使い家族へ知らせています。家族への電話連絡や来訪の際に生活状況の報告をしています。家族からの意見は連絡ノートに記録し全職員が共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夜勤報告のためスタッフは毎日ホーム長室に来ますが、この機会を利用しいろいろな意見、情報交換をするようにしています。またチーフ会議を随時開き、現場的解決を探るようにしています。	日頃からホーム長が職員の意見や悩みを聞いています。「お互い様」の気持ちを大切に有給休暇や希望休を取れるようシフト調整をしています。事業所独自の「看護・介護休暇」の設定もあり、働きやすい職場環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給・賞与・期末手当等の支給実施を行うばかりでなく、特別休暇としての「看護・介護休暇」の設定・他に有給休暇が取り易いようにスタッフ同士がお互い協力し合うよう云っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパービジョン機能を柔軟に作動させること。特に職員教育に関してはモチベーションが上がる様努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	現在、コロナ禍で中止になっていますが、地域にはグループホーム連絡協議会と云うものがあり、そこでの新年会、研修会などに極力多く参加させ、情報交換・それぞれの工夫などを学んでくるようにしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフにはまず入居者の方が事業所へ足を一歩入れた時、そして1週間、信頼関係を築いていく最重要期間と云っています。それは入居者の方がもっとも不安な精神状態にいるからです。職員からの関わりが大事と云ってあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	9番に同じです。誠実に対応することが一番不安を軽減させるものだと考えています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、スタッフが「チェックリスト」を作っています。お名前はなんと呼んだ方が良いですか、お食事は〇〇しますか？その他に今まで使っていたサービスの替わるものとしてどうしたら良いか話し合っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	このためには入居者の方の生活史を大切に、それを共感的態度で傾聴することによって帰属が高まると考えています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で現在は出来ておりませんが、何故に入居されるのか？を基本に考えながらも、「居室での家族とのくつろぎ」の時間を大切にしています。現在は電話で状況を報告しながら、ご本人にも電話を楽しんで頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活してきたこと、人との関わりを傾聴することによって入居者の方は、自分の生きてきた証を得ることができると考えています。たとえ具体的に交流が困難になったとしても、その精神的なものを大事にしています	感染症予防のため馴染みの場所への外出は自粛しており、買い物は職員が代行をしています。今後訪問したい場所の話をしたり、馴染みの詩吟や歌唱など暮らしの延長として関係が途切れないよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人生活してきた歴史も違う、価値観も違う、性格も違う方たちの共同生活の場で、楽しく、生活していくためにはスタッフの毎日の創造的係りが必要だと考え、そのことに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際に情報交換をしあっています。退居されてから数年以上も経つご家族との交流が何組もあります。また入居希望者の取り継ぎをしてくれる方もいます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分、生活歴を把握し、幅広く入居者ご本人の全体性を把握することに努めています	会話がしづらい状況でも表情を観察し目を見つめながら話しかけ、小さな気づきを大切に見極めています。利用者の承認欲求を検討し安心して暮らしが実現できるよう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話し、或いは介護認定調査票などを参考にこれまでのサービス利用状況を把握しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタル管理表等でこのことの把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	夜勤者のホーム長への報告等の内容はアセスメント・モニタリング・ケアプランの要素が含まれており、この意味ではケアプランの記入作成は最後の作業と云えます。転倒などの危険な状態などについてはご家族とお話をします	記録とデータを基に変化を読み取り、6か月ごとに更新する介護計画は利用者と家族の同意を得て完成をしています。投薬変更があれば1週間は注意深く観察し計画に取り入れ、状態の変化があれば随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日常生活はその方の生活歴とパーソナリティに規定されると考えています。したがって特に難しい状況があればそのことに対応するケアの方法など共有するようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人違うニーズに対し決まった既存のサービスで完結するという考えはありません。あくまでもその方の全体性にどう対応できるのか、事業所としての機能性を最大限生かすよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この事項についてはグループホームの性格上、医療機関との信頼関係を強く築いていくことだと認識しています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの主治医を大切にしながらも変えざるを得ないような場合はご本人、ご家族との合意形成を十分図っていきます	非常勤の看護師が利用者のバイタル表と個別の通院ノートに記録し、体調不良時の通院判断や職員への適切な指示を与えています。内科の往診や、かかりつけ医への受診の他、町内の他科受診も事業所に対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は非常勤ですが、介護員が心配している事への対応、通院時、Drへの報告内容の申し送りなど、協働体制の充実に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は常時整備してあるご本人の「基本情報・アセスメント」等を提示し入院体制に入れるようにして在ります。また退院に際しても病院詰所から「看護添書」を頂き、病院生活と急激に変化がないよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	認知症も含み、疾病的に介護レベルを超えて医療レベルに(飲まない・食べない)なってきた場合は段階的に今後の方向性について話し合うようにしています。他のサービス提供者とも情報交換をしています	入居時に利用者と家族へ看取りに関する指針を説明しています。重度化した場合も本人の望む生活が継続できるよう職員が支えています。最終的な判断は家族、医師、事業所で話し合い希望に沿った支援方法を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	先ずは看護師への緊急連絡網の利用、応急手当の初歩的な技術は消防署が行う研修会参加、救急車の依頼の仕方などはマニュアル化してあります。特に転倒したような場合の対応の仕方は強く指導しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練と共に地震などの総合訓練を実施しています。非常通報装置のホットラインには地域の方、協力施設が設定されています	3月と9月の昼夜想定火災訓練と、原子力防災訓練をしています。次回の3月は自然災害訓練を計画しています。備蓄品も用意しており、災害等緊急時に関する協定書を作成して不測の事態に備えています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症の方の人格を尊重することとは何か」という基本的なことを常々話をしています。「分からなくても」「話さなくても」がボランの家の尊厳性の考え方です。またご本人のプライドを大切に接遇の実践につとめています	利用者の人格と意思を尊重し自己決定が出来るよう支援をしています。家族からの電話は利用者へ電話の子機を渡し、居室で話してもらう事でプライバシーが確保できるように支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な決定事項でも、ご本人の意思を尊重するようなコミュニケーションに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日常生活に於いて、何が大事なのか、そしてグループホームの存在理由を認識してもらう様、スタッフに常々話をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な生活空間と小ざれいな身だしなみ、ボランが大事にしている事です。実践に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむとはどういう状態なのか？スタッフにいつも話している事です。それは楽しい食事、美味しい食事とは「心で食べる食事」のことを云うからですと。そしてその後も協働によってその美味しさも、さらに増すと考えています	誕生日は利用者の食べたいものを確認し提供しています。敬老会は割烹料理店から料理を取り寄せています。畑で採れる山菜や新鮮な野菜も食材として利用しています。季節行事も多く、旬の食材を使った食事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方の三大健康管理は「血圧」「水分補給」「排泄管理」と考えていますので、リビングごとの台帳を作り、一日のバランスを見ています。食事量については介護記録に分かり易いような記述様式にしてチェックしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生は嚥下の状態にも大きな影響を与えますので口腔ケアは入念にしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は人の最も大事で、尊厳性が問われる行為です。失禁したことへの認識があろうが、薄かろうが充分配慮した介護が必要と考えています。一人一人の排泄パターンを把握し、排泄を促すようにしています	排泄パターンを把握するため記録を活用しています。排便がスムーズになるよう職員が腹部マッサージでサポートしています。利用者により転倒防止のため夜間帯はポータブルトイレを利用するなど個別の対応で支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄を促すようにしています。スタッフには特に便秘による血圧への悪い影響を話しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は意外と高齢者特に認知症の方は嫌いです。おっくうなのだと思いますが、導入部分を工夫するようつとめています。そして風呂場では一対一の会話が楽しめるようにしています	一人平均週2回、午後の時間帯に2～3人が職員と昔話や内緒話を楽しみにリラックスしながら入浴をしています。入浴の苦手な利用者にもタイミングを変えて声掛けすることでスムーズに入浴できるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の一日のバイオリズムがありますが、そのことを大事にして健康管理を考えています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の薬歴を認識し、この人の場合はどのような副作用が出るというスタッフの共通認識の下、新しく薬が出たよう場合は1週間ほど注意深く観察することになっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることはして頂きます。手伝って頂いたことには「感謝の言葉」を必ず言うことにしています。リビングで仲間同士ゲームもします。こうしたメリハリのある日常を作ることにしています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で行えていませんが、このことは身体的にも、疾病的にもなかなか困難なことです。誕生日など、レストランなどについて食事などをするようにしています。基本的には出かけられるうちは、沢山出かけよう、これが姿勢です	感染症対策として外出は難しくなっていますが、玄関前にパラソルを立て、スイカやアイスキャンディを食べたり、1階のベランダでシャボン玉を飛ばすなど現状として出来る事を検討しながら戸外に出られるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使っても使わなくても、お金を持っているということには安心します。あまりお金を使う機会はありませんが、通院の帰り好きなお菓子などを買うようにしています(コロナ禍で現在は寄り道を避けていますが)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	中継ぎはしますが、子機を利用し、自室で家族に電話がかけられるようにしています。会話のプライバシーは尊重しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ケアには環境的ケアも重要な要素と考えています。具体的にはリビングに湿温計を掛け、温度管理・湿度管理に注意し、また高齢者は一般的ルクスよりも高めを必要とするため、電気の明るさに気を使っています。明るさは生理的な問題ばかりでなく、心理的な影響もあるため大事にしています。	明るいダイニングで午前中は認知機能の低下防止のゲームを利用者ごとに楽しみながら行っています。大型の空気清浄機や加湿器を利用し快適に過ごせるようにしています。職員と一緒に作った壁飾りや季節の飾り、鉢植えなど家庭的な雰囲気がある共有空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一般的に生活者の社会的共通欲求としてある家族的安定とは空間的には居室の居住性を指すようですが、其のことを大事にしています。また入居者の方たちの介護状態に応じた安全性(家具の配置等)も工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	上記の事の外、自室に帰属性が高まり、心が落ち着くよう、居室のディスプレイに工夫をしています。	クローゼットの備えられている居室には、馴染みの家具や使い慣れた調度品、利用者が大切にしていた物を置いています。カレンダーや家族の写真を飾り、落ち着いて居心地よく安心して生活できる環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの尊厳性を大事にしながらも第一義的な「安全に生活する」ということに努めています。しかしそれが入居者の方の心まで閉ざすような安全性は避ける努力をしています。		